特定非営利活動法人 日本免疫学会

2025 年度 前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award

研究発表報告書

申請者氏名	麻 実乃莉	**会員番号**	0037144
申請者の所属・職名	大阪大学 微生物病研究所 分子免疫制御分野 特任研究員		
出席会議名	CD1-MR1 2025		
発表論文タイトル	Identification of conserved CD1b motif (RExxD) that interacts with TRBV4-1		

実施結果:

この度は、2025 年度前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に採択いただき、心よりお礼申し上げます。本 Travel Award のご支援のもと、9 月 9 日から 12 日にかけて開かれたアメリカのオレゴン州ポートランドでの CD1-MR1 学会に参加させていただきました。

私にとって、初めての国際学会における口頭発表であり、また免疫学の先生方に解明した構造データがどこまで受け入れられるか不安もありました。しかしながら、海外の先生方は非常に好意的に受け止めてくださり、会期中に直接話しかけていただいたり、質問もいただけました。
また、今回光栄なことに、学会主催者の Annemieke de Jong 先生と共に私の発表したセッションについて座長を務めさせていただき、この経験は非常に大きな学びとなりました。

論文の共著者であった Branch Moody 先生, Ildiko Van Rhijn 先生ともお話しさせていただける機会があり、実験の進捗や解析ツールをいかに機能させるかについてゆっくり情報交換することもできました。
さらに現在、別プロジェクトの共同研究者である Jamie Rossjohn 先生と Adam Shahine 先生ともプロジェクトの進捗について話し合い、また先生方のラボの学生やポスドクの方と構造解析について議論する機会をたくさん持てたことも印象的でした。
また、今年から始めた新たな別のプロジェクトについて、先駆者である Chyung-Ru Wang 先生とも初めて直接お話しすることができました。私の実験結果についても非常に好意的に受け止めてくださり、本学会に参加したことは、共同研究につながる契機となりました。

これまでに何度か会うことができた海外の先生方に、私の名前を覚えていただけたことは大変光栄でした。今回の渡航は、研究において直接会って話すプロセスの重要性を再認識しただけでなく、世界における自分の研究の立ち位置について俯瞰し、海外で研究する未来を具体的に想像できる非常に良い機会となりました。
２年後、この国際学会の開催地は日本ということで、より成長した姿で先生方にお会いできるよう、一層研究活動に励んでいく所存です。

最後になりましたが、渡航を提案いただいた山崎先生と普段より研究を支えてくれているラボメンバーに改めてお礼を申し上げます。

注）本参加記は手書きでなく、Word を使用して作成してください。